

オディリア通信

あいあい

夏号(No.94)

R6年8月15日

社会福祉法人 聖オディリアホーム乳児院
〒165-0031 東京都中野区上鷲宮 5-28-28
TEL (03)5971-8071 FAX (03)5971-8073
Eメール odilia@guitar.ocn.ne.jp
ホームページ <http://odilia.jp>

基本理念 「愛をもって、愛を育てる」

今年の夏は、今までと同じようには考えられません。まず、感染症の広がりです。新型コロナウイルスが5類になったとは言え、子ども達が感染するリスクはあります。職員を含め発熱者がれば検査を続けています。また、それ以外の感染症もニュースで伝えられている通り流行っています。手足口病、アデノウイルス感染症、溶連菌感染症など一つの部屋で同時に複数の感染症が流行ってしまうこと等今までは考えられませんでした。

そしてこの暑さです。通院や予防接種など外出しないわけにもいかず、ベビーカーを使う時は冷却シートをつけて出掛けています。熱中症を考えると散歩にでるのも難しく、遊戯室や長い廊下を使って身体を動かします。2歳8か月の女児は室内遊具の鉄棒にぶらさがりトトロの歌を唄ったり、職員の真似をして10まで数を数えたりして遊びます。プールは、日陰を作りながら短時間ですが、色水遊びなどを取り入れ楽しんでいます。

子ども達は、このような厳しい状況でも、工夫した環境設定の中で、毎日、たくさんのことを吸収し成長していきます。

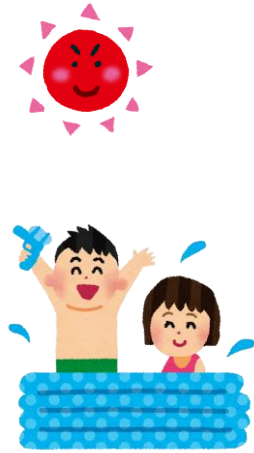
(施設長 鎌倉道子)

	月	月	月
身長	cm	cm	cm
体重	g	g	g

中月齡児も、色の付いた氷をバケツに入れて持ち歩いたり、保育者と共に太陽に透かして「キラキラだね」と一緒に話したりして楽しみました。

また、氷が溶けた後の色水にも興味を持ち、『氷が溶けたら水になる』ということを楽しみながら、体いっぱい水を浴びて楽しい時間を過ごしました。

(保育士 山崎)



集いの広場

聖オディリアアホーム乳児院の一階には集いの広場があります。地域に住む0歳〜小学校入学前の子どもとその保護者が、いつでも自由に遊べる場所です。今回は集いの広場で開催している行事を紹介します。



○ベビーマッサージ○

毎月開催しています。1歳2カ月までの赤ちゃんと保護者の方が対象です。心地よい皮膚刺激が、赤ちゃんだけでなく保護者の方の情緒の安定にもつながります。マッサージ終了後には、講師の先生による大人向けのリフレッシュ体操もあり、好評です。

○歯科講習会○

年に二回、鷲宮すこやか福祉センターの歯科衛生士さんによる『親子の歯と口の健康について』の講習会を実施しています。歯が生える前からできること、歯磨きの方法や嫌がってしまったときの

コツなどを、実演を交えて話して下さるので、とても分かりやすく勉強になります。

○いっしょはなかよし○

月に一回、とちの木保育園の園児さんとの交流を行っています。園で普段行っている手遊び歌を園児さん自ら披露してくれています。

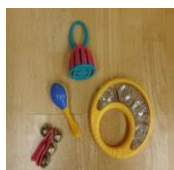
○リトミック○

毎月開催しています。広場にあるアップライトピアノを使用しています。講師の先生が奏でる軽快なリズムに合わせてジャンプしたり、ピタっと動きを止めてみたり、好きなように楽器を演奏したりと、身体全体で音楽を楽しめる時間です。

○夏祭り○

今年は、八月五日〜十九日の期間で夏祭りを開催します。小さいお子さんも楽しめるよう、手作り金魚すくいやヨーヨー釣り、フォトコーナー、ボールプールを用意しています。どうぞ遊びに来てください。

(保育士 保坂)



遠足



気温が高くなり過ぎて
しやすくなった初夏の
頃。クララ室では五月
十四日に上野動物園へ
遠足に行ってきました。
行きは電車に乗って
上野駅へ。電車に揺ら
れながら、「どんな動物
がいるかな?」と、動
物園への期待を膨らま
しています。

上野動物園に着くと、普段絵本やテレビで見慣れている動物が実際に目の前に現れて大はしゃぎ!そうやパンダ、キリン、カバ、ペンギンなどたくさん動物を見ることが出来ました。



楽しみ方はみんなそれぞれ。じっと観察する児、「そうさんねんねしてたね」など保育者や子どもたちでおしゃべりを楽しむ児、たくさん動物が見たくてどんどん進んでいく児…。楽しみ方は違っても、動物園を満喫出来た様子でした。帰りはタクシーに乗って帰宅。ほとんどの児がはしゃぎ疲れ、タクシーに乗るとすぐに眠ってしまい、夢の中でした。帰ってから、遠足での様子を留守番していた保育者にたくさん話しており、特別な一日になりました。

(保育士 常数)

水遊び ～氷と絵の具を使って～

気温が30℃を超え蒸し暑くなってきた頃、乳児院では院庭やベランダで水遊びをします。水遊びの中で氷を活用することが多々ありますが、この日は氷を使ってさらに色彩遊びも行いました。

保育者が氷にピンク色の絵の具を塗り始めると、子どもたちは「わあ、ピンクの氷だ!」と目を輝かせています。

高月齢児は自ら筆を持ち、一生懸命氷に色塗りをしていました。氷がツルツルと滑るので、始めは難しそうにしていますが、床に置いて塗るなどそれぞれ工夫をして、徐々に「ツツを挿んでいきます。氷が様々な色に染まると、「見て、出来たよ」と嬉しそうに話していました。

作業療法士

私たちは、子どもたちが座って静かに過ごしていると「お利口さんだね」「えらいね」と褒め、落ち着きなく動き回ったり、すぐに泣いて抱っこばかりを求められたりすると困ってしまいます。しかし、本当に困っているのは身の置きどころがない子どもたちの方かもしれません。



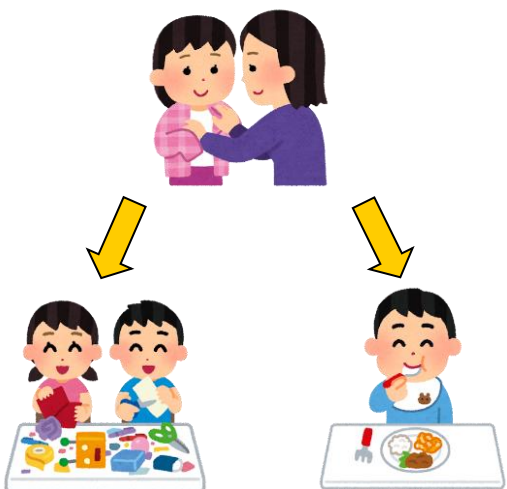
赤ちゃんはお母さんのお腹の中にいる時、からだの関節を全部曲げてボールのように丸い姿勢で過ごしていますが、生まれると重力によってその丸い姿勢が保てなくなり泣きます。そこから自分の意思でからだを自由に動かせるようになるまで、色々な動く経験が必要になります。それは特別な運動ではなく毎日の生活に必要な動作で良いのです。

例えば着替えは毎日あり、一日の中で何回も着脱します。赤ちゃんの時は大人が全部やってあげますが、そのうち頭や腕を通す時に大人の動きに合わせてその部位を動かすようになり、くつ下を自分で引っ張って脱いだら履けるようになっていって、3歳くらいになると一人で着替えられるようになります。その着替え

に必要な姿勢を保って部分的に手足を伸ばしたり曲げたりする動きが、並行して食具を使って食べることや、お絵描きをしたりハサミや粘土を使うことなどに共通する動きとなっていきます。

きちんと座って遊ぶためには、からだの中にあるたくさん関節を複雑に組み合わせて動かすことが必要で、それはとても難しいことなので時間がかかります。そのためにはよく食べて、よく動いて、よく眠って体力をつけていきますよう。

(作業療法士 萩之内)



今後の行事

10月 ハロウィン

12月 クリスマス



お知らせ

聖オディリアアホーム乳児院のホームページがあります。合わせてご覧下さい。

<http://odilia.jp>

☆編集 後記☆

こちらの記事を編集している頃、ちょうどセミが鳴き始めました。今年の夏も暑さが大変厳しくなっております。子どもたちも、皆様も元気に夏を乗り越えられますように…。(保育士 常数)

*本園だよりのいかなる情報の無断転載を禁止いたします。